



笠沙

笠沙は、薩摩半島の西南部に位置し、三方を東シナ海に囲まれ、急峻な断崖が多く、変化に富んだ地形です。リアス式海岸のドライブルートは絶景で、南さつま海道八景にも多くのスポットが指定されています。昔から焼酎の杜氏を輩出してきた黒瀬集落、石垣の大当集落をはじめ、農村と漁村が点在しています。「笠沙」の地名は、「古事記」に登場する「笠沙之御前」(笠沙の岬)にちなんだもの。町名になる以前は、この一帯に「笠沙」という地名は、字としても広域地名としても存在していませんでしたが、多くの伝承や逸話がこの一帯を指し示しており、歴史的研究の対象地名とも重なる地域です。

南さつま市

MINAMISATSUMA CITY

鹿児島県南さつま市は、鹿児島県薩摩半島西岸に位置する、豊かな自然と歴史を誇る地です。2005年に1市4町が合併し、誕生しました。それぞれ独自の歴史と文化を有する旧市町村がひとつになることで、さらに魅力あふれるエリアをつくりだしています。個性あふれる地域の魅力がきらめく南さつま市に触れてください。



金峰

金峰は、東部に南薩の名峰で霊峰でもある金峰山(636m)があり、気候は年間を通じて温暖で、旧石器時代からの遺跡が発掘されています。海岸線は、日本三大砂丘の一つで、美しい松林の続く広大な吹上浜があり、海ガメの産卵場所として有名。一帯は県立吹上浜公園として整備され、公園内を流れる万之瀬川の流域は県内でも有数の野鳥が観察される場所でもあります。サンセットブリッジや南薩少年自然の家などのスポットもあります。農業も盛んで、超早場米の「金峰コシヒカリ」と吹上浜砂丘一帯で生産される白ネギなどが知られています。



大浦

大浦は、県本土最西南端の大浦川流域に位置します。北部は大浦潟の干拓地となっており、東シナ海に面しています。東部には長屋山、西部には入谷、亀ヶ丘連山、南部には磯間岳があり、三方を山に囲まれています。歴史的には、大浦町の全域で縄文時代のもつと見られる土器が発掘されており、特に大浦川上流の台地に散在しています。名所は、亀ヶ丘、ふるさとくじら館、磯間岳、北限のマングローブ(メヒルギ)の小群落など。亀ヶ丘は、県内では数少ないパラグライダーのスポットでもあり、秋にはコスモスも楽しめます。



坊津

坊津は、薩摩半島の西南端に位置し、風光明媚で、古来中国や南方諸国の受け入れ口として栄えた歴史的港町です。遣唐使船が行き交う頃、奈和尚が初めて踏んだ日本の地の自然は、発達したリアス式海岸の自然は、発達したリアス式海岸博多の那ノ津とともに日本の三夕日は、美しく、一帯をオレンジ色に染めながら、入江の小島を前景にして水平線に沈む様は言葉を失うくらいに荘厳な美しさです。



加世田

加世田は、薩摩半島の西南部に位置し、東シナ海に面し、吹上浜があります。歴史的には、縄文時代の遺跡から土器や石器、炉なども発掘されており、悠久の昔にこの地に生きた人々の暮らしを伝えています。また、戦国時代にこの地を治めた名君・島津忠良公は、「日新公(じっしんこう)」として親しまれ、「日新公いろは歌」は、薩摩藩の精神教育の礎となりました。現在は、豊かな自然に育まれた農産物生産も盛んで、かごしまブランド指定第一号になった「加世田のかぼちゃ」や「砂丘らっきょう」、「砂丘メロン」など特徴的な産物もあります。